

第116回経営協議会議事録

日 時 令和2年9月14日（月）10時00分～12時00分

場 所 UEC Ambient Intelligence Agora

出席者 (学外委員)

大家委員、門脇委員、川上委員、小間委員、鈴木委員、長友委員、端山委員、望月委員、森口委員

(学内委員)

田野学長、小花理事、阿部理事、植村理事、三浦理事、西野研究科長、西岡学域長
(オブザーバー)

岡山理事、小池副学長、村松副学長、山口副学長、坂本副学長、吉海監事、名取監事

議 題

議事録報告承認

第115回経営協議会議事録報告承認 (資料①)

□討議事項

1. 本学の新たなミッションステートメント（案）の背景・意味・想い (資料②)
2. 本学の大学広報について (資料③)

□報告事項

1. 国立大学法人ガバナンス・コードへの対応について (資料④)
2. 事務組織の見直しについて (資料⑤)
3. 危機対策本部からの報告について (資料⑥)

議 題

議事録報告承認 第115回経営協議会議事録

田野学長より、第115回経営協議会議事録（案）について説明があり、これを承認した。

討議事項 1 本学の新たなミッションステートメント（案）の背景・意味・想い

田野学長から、本学の新たなミッションステートメントについての考えを説明し、内容について討議を行った。

出された主な意見は次のとおり。

(学外委員) このミッションステートメントを作ることによってどこを目指そうとしているのか明確でない。

(学内委員) 目指すところを明確にしないで、本学自らが、すべてのセンサーが繋がった、物性研究、ネットワーク技術、AI、ビッグデータ、セキュリティー技術などのプラッ

トフォームとなり、地域や産業に応用できるようにしたい。

(学外委員) プラットフォームだけを作るのではなく、サステイナブルなシステムが求められている。

システム系の大学に求められることは、本質的な課題が何かを捉えてシステムデザインをしていくことではないか。

(学内委員) 誰も使わないシステムではなく、社会で活用されるものを作ることが必要と考えている。

(学外委員) 教育は大学の重要な使命なので、電通大の卒業生はどのような能力を持っていると社会から認識されることを目指しているのか、また、学生自身が電通大で受けた教育内容について自信を持って説明できる教育を行っていることを、ミッションステートメントに加えたほうが良い。

(学外委員) ミッションステートメントの三本柱である教育・研究・実現の中で特に教育に関しては、現在のコロナ禍によって変わっていくと思うので、その変化についてもビジョンに含めては如何か。

(学内委員) ご指摘を踏まえ、教育に関する内容をこのミッションステートメントに入れる必要があると考えている。

(学外委員) 変革を常に起こしていくことを自ら選択して進んでいこうとする文化を作ることが重要だと思う。

(学内委員) トップダウンではなく、職員グループを作って自らが問題意識をもって変えていくような仕組みを考えている。

(学外委員) ビジョンを作って学内で共有して進めていこうという取り組みは素晴らしいが、ダイバーシティの位置付けが弱い。ゴールの1つとしてダイバーシティをどう増やしていき、それをいい方向に生かせるかは重要なポイントになる。

また、ビジョンを作って何かを実現するためにはベンチマークはとても重要である。

(学内委員) 多角的な多様性を意識して維持するというのは、D.C&I 戦略の意図するところであり、また、指標をどのように設定するかも重要であると認識している。

(学外委員) システムチックやダイバーシティというアプローチだけではなく、本学は研究大学であるのだから、最先端の研究結果が出てくるような仕掛けが大事だ。

討議事項 2 本学の大学広報について

植村理事から大学広報についての概略説明の後に、坂本副学長（広報担当）から本学の広報の具体的な内容について説明し、内容について討議を行った。

出された主な意見は次のとおり。

(学外委員) “伝える”を主眼に置いた広報活動をしていただきたい。

他の国立大学に比べて電通大のメディアに対する売り込みは、非常に少ない印象。すべての教員はマーケッターであり、教員とUR Aは大学の広告塔という認識をもつ必要がある。

例えば、学会発表等を行ったら、その都度プレスリリースすると同時にメディアに売り込んでいただきたい。

また、ウェブベースでの情報発信を行う場合、使う側は検索から入っていくため、検索で一番価値がある情報であるプレスリリースに、「超スマート大学」という言

葉を使うといった取組を重ねていくことで、検索からの流入というのが増え、いつの間にか超スマートといえど電通大というイメージが定着するだろう。

(学外委員) 電通大のOBを産業別、年次別、地域別にもっと組織し、活用された方がいい。

(学外委員) 広報のターゲットをどこに設定しているのかが不明。ターゲットを絞り込むか、若しくは、学生、産業界、一般社会それぞれ毎に戦略を立てて広報すべきではなか。

(学外委員) 目黒会と連携して、実業界で活躍しているOBを活用していただきたい。

(学外委員) URAは、忙しい教員に代わり研究の中身を理解した上で色々な広報をすることも担っているのだから、URAをもっと活用すべき。

報告事項 1 国立大学法人ガバナンス・コードへの対応について
三浦理事から国立大学法人ガバナンス・コードについて及び今後の本学の国立大学法人ガバナンス・コードへの対応スケジュールについて報告があった。

報告事項 2 事務組織の見直しについて
三浦理事から、各理事と事務組織とのより一体的な業務の推進のための、事務局制・事務局長制を廃止することに伴う事務組織の見直しについて報告があった。

報告事項 3 危機対策本部からの報告について
田野学長から、危機対策本部（新型コロナウイルス感染症対応）で前回の経営協議会以降に審議、決定した内容について報告があった。

[配付資料]

- ①. 第115回経営協議会議事録
- ②. 本学の新たなミッションステートメント（案）の背景・意味・想い
- ③. 本学の大学広報について
- ④-1. 国立大学法人ガバナンス・コードへの対応について
- ④-2. 国立大学法人ガバナンス・コード公表に係る会長コメント（声明）
- ④-3. 国立大学法人ガバナンス・コード
- ⑤. 事務組織の見直しについて
- ⑥. 危機対策本部からの報告について